

Hiroshima and Peace 2016 レポート

秋田大学国際資源学部3年
バヤスガラン ブヤンヒシゲ
(秋田県秋田市)

今回8月2日から8月10日まで10日間広島市立大学が実施した夏期講座「HIROSHIMA and PEACE」に参加しました。世界12カ国から集まった41名が「平和とは何か」というテーマを持って、文学から原子力物理学まで多様な講座を通し、多角的に平和について学び考え、時には受講生で議論をしました。41人の41通りの意見や考え方がありました。しかし、被爆者の方から原爆の落とされた日に、体験したリアルなお話を聞き、みんな一緒になり、真面目に聞いて、想像したり、目に涙を浮かべたりしました。たとえ考えに違いがあっても、平和に対する強い思いには決して違いがないのだということを、心の中から感じることができました。

【このプログラムに参加して学んだこと】

このプログラムの最初のワークショップでは「あなたにとって平和とは何でしょうか」という質問について話し合いました。41人全員が文学から原子物理学まで様々な答えを出しました。これは広島、文化、政治、歴史、社会学、核兵器問題、法的問題や環境問題を通じて平和について学ぶ旅の最初のステップでした。

HIROSHIMA and PEACEを通して「平和とはなにか」というテーマを真面目に取り組み、最終発表で一人ずつ自分たちの平和を語りました。

多様な講義のあと、人間の命は最も貴重なものであることを強く感じました。原爆投下の背後にある理由について日本やアメリカがどのような説明をしても、我々が理解する唯一のことは、人は人間を傷つけることができる恐ろしい、有害な、危険なことを絶対してはいけないということです。なぜかという私たちの心に残っているメモリは常に他の人とつながっています。間違っても大丈夫ですが、過去の間違いを繰り返さないことが重要です。なぜかという、被爆者が体験したような苦しみを誰もが感じるべきではありません。全ての生きている人は、人間として生きる価値のある人生を歩く権利を持っているのです。

私たちは広島プログラム期間中に原爆ドームと広島平和記念資料館に行きました。原爆ドームと広島平和記念資料館には、原爆の恐ろしさを伝え、核兵器の廃絶と永遠の世界平和の求めるための誓約を象徴しています。

資料館は被爆の前後の広島の歴史を示し、原爆による破壊の事実や現実を描いています。爆弾の回顧録を含んだ原爆犠牲者の写真が将来の世代へ原爆投下の経験を伝えていました。

【核兵器廃絶活動ための提案】

秋田で特別な日を作って広島について学ぶ機会をつくる

内容としては

- 大学で原爆ポスター展を開催する
- 広島や戦争について映画、アニメなどを見せる
- 核兵器、原爆、福島などについて本を無料で展示し読ませる
- 中学校や高校生の英語の授業に英語での広島、戦争、原爆についての映画を取り入れる
- 平和や広島についてのエッセイやスピーチコンテストをつくる
- 原爆、核兵器、広島などについて本やビデオなどを無料で借りられる期間をつくる

【平和活動の推進のために私自身の計画】

現在行っている浅利香津代さんの講話と朗読会をもっと拡張させたいと思います。例えば

- 講話と朗読会を小学生以外中学、高校生にも行う
- 広島や被爆や核兵器についての映画やアニメなどを見せる
- 原爆、核兵器、広島、福島、被爆者などの多様な本を紹介し、図書館に取り入れる。いろいろな分野の本に興味を持たせる

私は講話と朗読会を行っている浅利香津代さんと協力し、中学生や高校生に講話と朗読会を拡張させ、映画やアニメなどを見るチャンスを作ります。映画やアニメをみることによって原爆の恐ろしさを自分で感じるすることができます。文学から原子力物理学まで多様な本を読むことによっていろんな分野の知識が増え興味を持つことができます。

また、秋田大学で広島・土崎の被爆被害写真や被爆資料や被爆映画・アニメなどを展開したいと思います。

秋田市は国際平和を促進しようとしているけれど、秋田市が平和活動を促進するため何をやっているかをわからない大学生まだまだたくさんいると思います。私は広島市立大学の夏期講座「HIROSHIMA and PEACE」の参加準備として、秋田市が平和促進のため何をやっているかを見に行く前までは、講話と朗読会、原爆展や被爆者スピーチなどがあるのを知らなかったです。

従って、秋田市役所で展示されている原爆写真や資料、被爆証言などが秋田大学で行われる必要があると思います。秋田市役所は秋田大学から遠く離れているためわざわざ見に行けない人もいると思うので秋田大学のスタッフ、教師、全ての学部の学生が広島原爆について理解することができるいい機会になると思います。